

A429  
10

西郷桐野奮勇たうと雖ども熊本城を  
 拔事能く谷少將の大功此止まら若  
 將帥の柔弱なれば落城の程も覚束なく  
 賊將攻め退陣と決定せし逆ハ正敵  
 せざる故あり賊尚再起を計るも亡命近  
 在らし

村井静馬記

三十一号

010190510170

48-7886

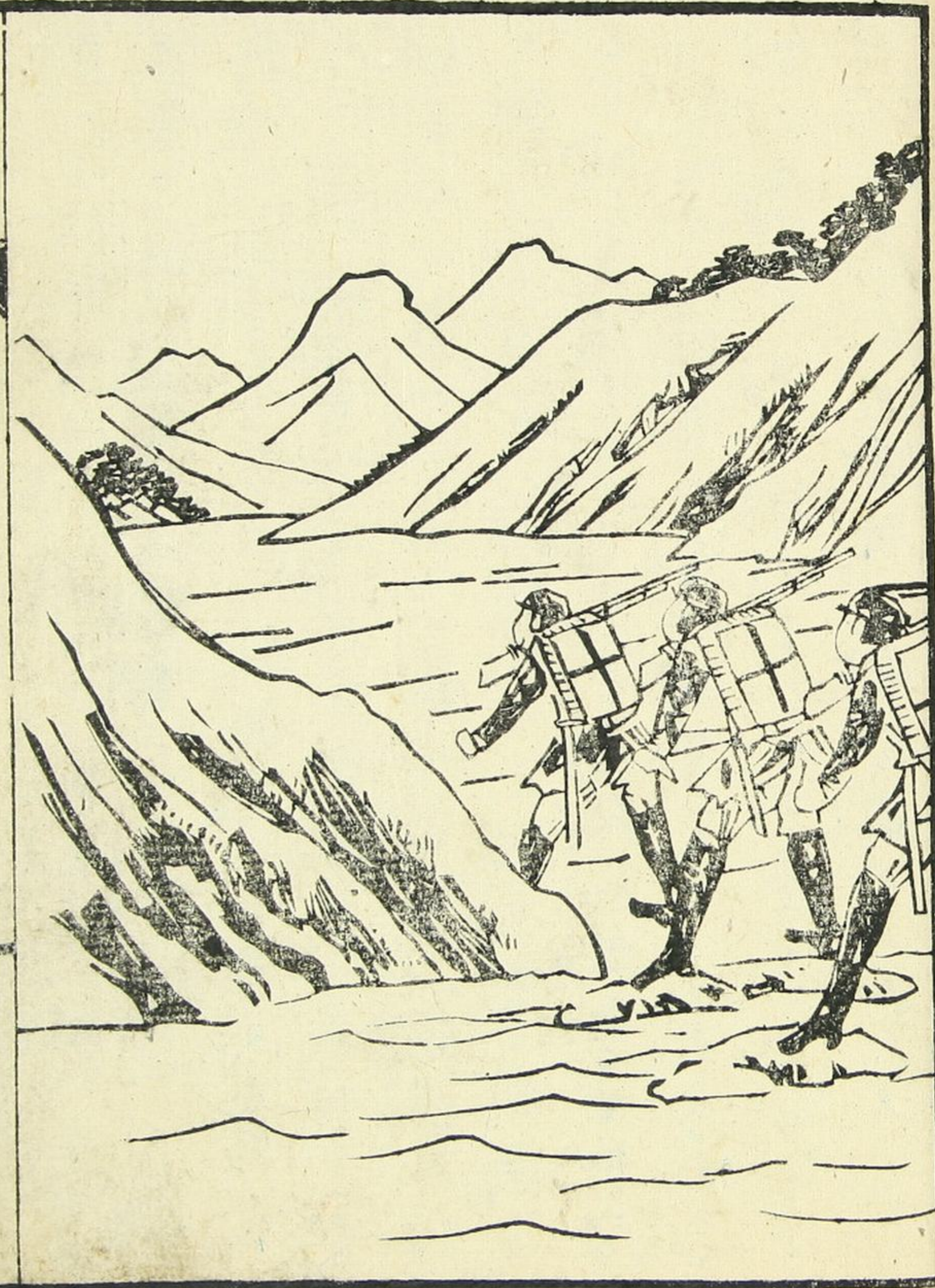


肥後城  
 諸將  
 入城集  
 會の因

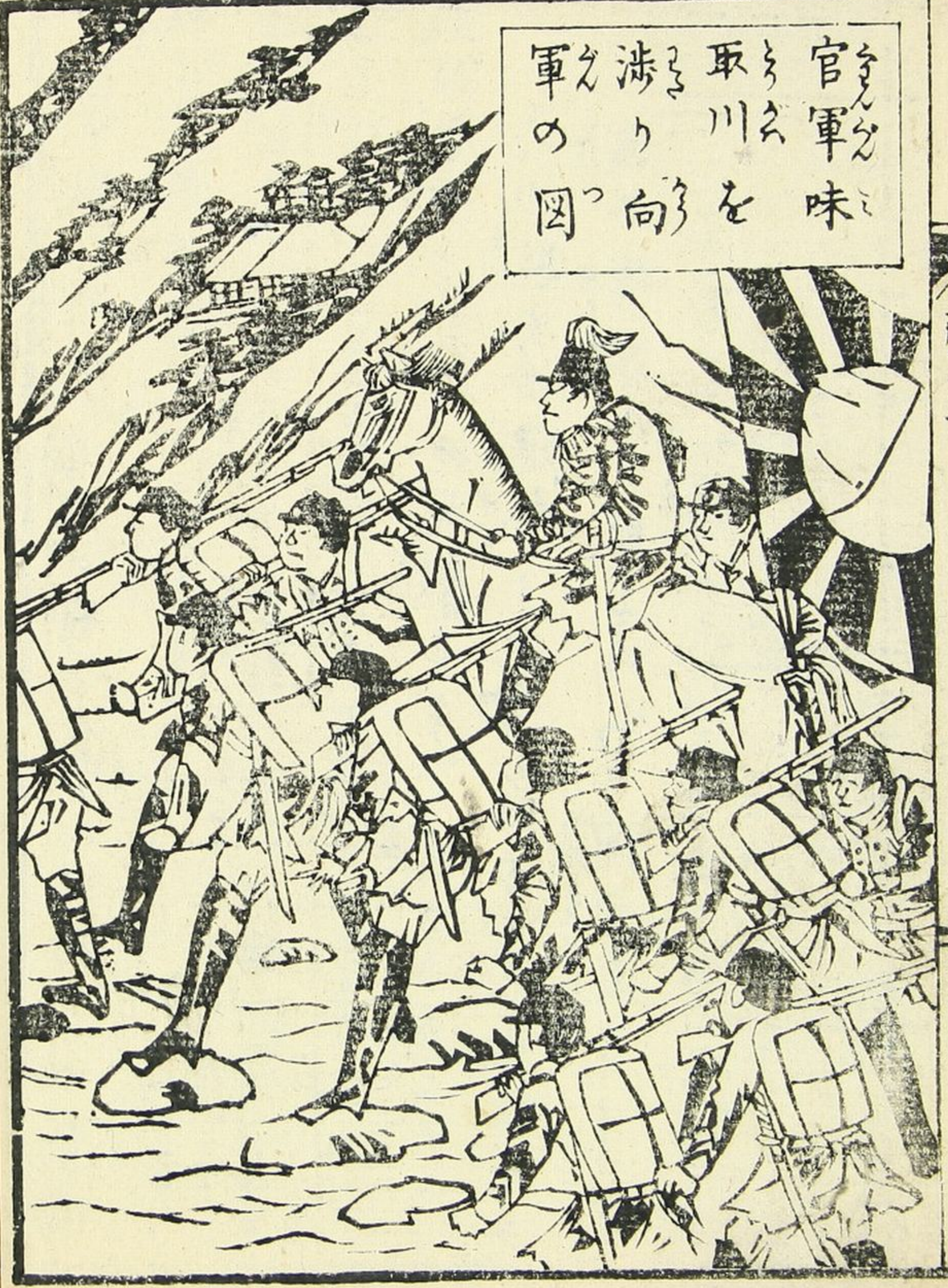


四月十五日黒田参軍よりあつせ本日曉方山田少  
將黒川大佐の率たる左翼の兵とすめ味取川と  
渉り攻戦し川尻へ進入し賊のきんぐは敗走し  
時は山川中佐右翼一中隊の兵とひた熊本は達  
せ又木の葉より同日のあつせ賊壘は火の起りし  
又官軍とれし乗と賊のこづく散乱し官軍を  
んせし坂は陣し明日ハ熊本は通すし又安藤  
中警視より十五日八代口の官軍ハ熊本へ入り  
植木より川畑永谷その外も熊本へ入り賊ハ萩  
山矢部の方へありぞくとあり又木苗植木鳥の巢

近傍の賊ハ逃さり川路少將と高島少將と十五日拂  
曉より御舟船口を進撃するし賊ハこづく解散し  
まへにタケ宮は迫り坂梨へ出張の檜垣推少警  
視と松山三等大警部ハ四乗警部の手より切入り  
賊ハ狼狽さん乱し死骸をまき逃さり直ハハカ  
シウ内の牧も進撃し死傷あびさし生捕りも  
あり賊の弾薬二十駄そのら陣営具をすぶと  
分捕し官軍は死傷十人ありあり十五日  
勝軍より熊本へ通し先鋒の將校へ出水より樺  
山兒玉をふ面會し緊急の攻所へ守備とあり



官軍の味  
 取川を  
 渉り向  
 軍の  
 図



賊ハ日州街道木山へ向ノク遁走リ八代口の兵由  
熊本へ通下是までの激戦ハミ米穀などを運  
送の手筈とありとて城外四方の賊徒とあり  
ちしひ諸道の官軍あひく入城ヨリ十七日ニ総  
督本營と熊本へ入りしり鹿見島よてハ勅使ハ歸  
の後三月末頃より兎角市中グ穩うありむ誰と  
かく賊ニ應むる様子よく西郷へ金などをかふる  
りのあり又賊方の者ハ政府をかりさるよつひ  
今ニ此軍グ勝と封建ヨリてえせるまゝのつひ  
人心をまよふせ當時官官を勤めと居る人の苗守

君や親戚を犬猫のやうに見下し途中ぞ悪口を  
つゝもろり賊の女房子供ハ東京へ来て居る人と  
ふる留守宅とち毀せしもろり甚だ疎暴の働  
らんとし同所より出張し賊の内五十以上の者  
グ百八十人あり十五以下の子供グ三十人余り  
女グ九十人あり男の部ハ多く死せしやうと  
音信グあつたといふ賊のちち桂衛門ハ會計のため  
鹿見島へかゝり縣廳の命たつらり三千人の  
兵とつり又病人を鹿見島よおろし全快のちハ  
直ニ出張し官軍大敗北といふと知せる為



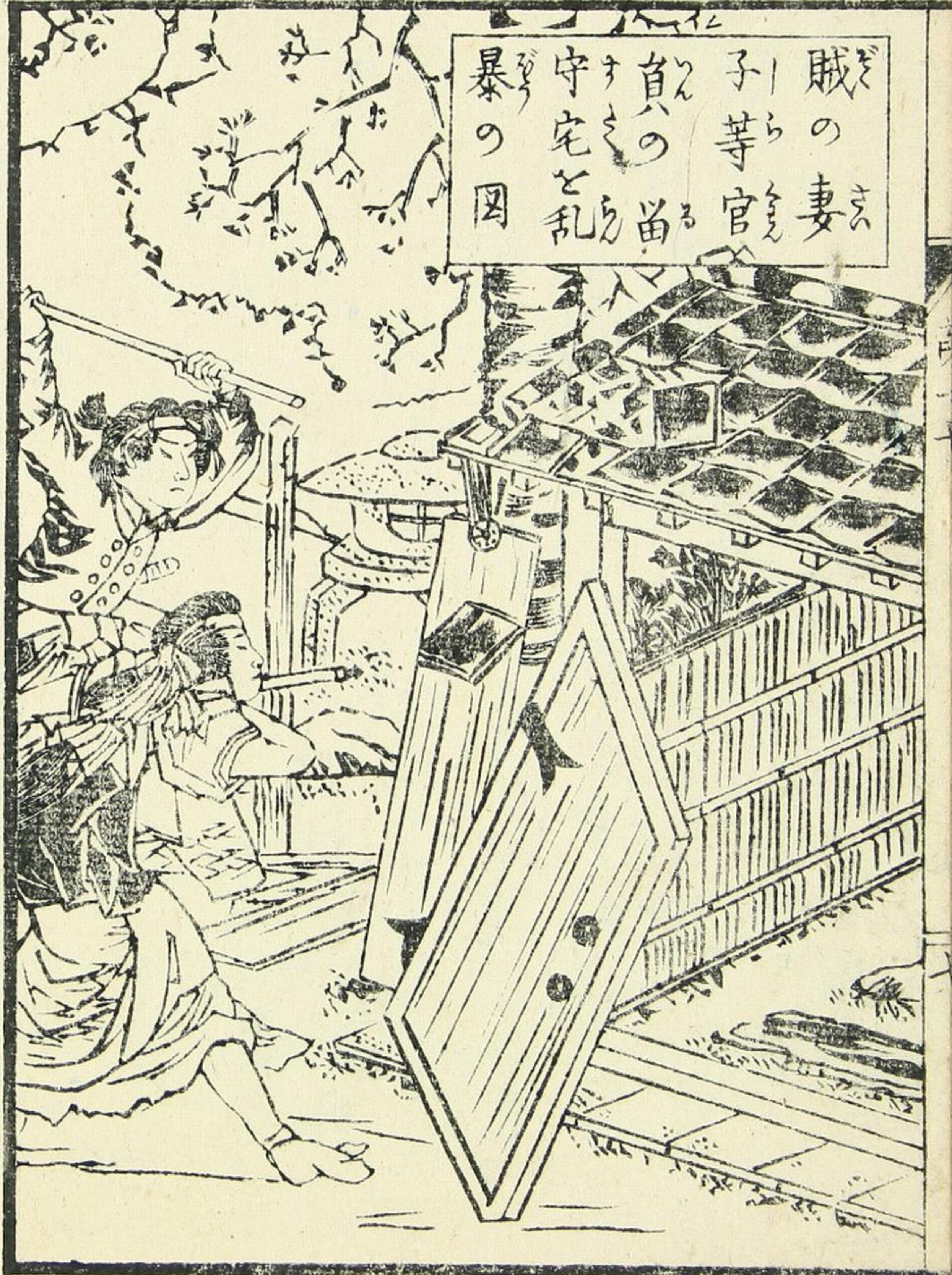
賊徒軍の勝敗を鹿島へ報知の図



毎日二度づ六人昇の早急籠と鹿見島に通ト又  
縣廳の命とて兵を遣のり金策の都合とせしりも縣  
その名と偽りつるとあり又野津三好両君の  
手とて廿二日夜よ入て木山をめぐり賊ハ矢野へ  
めがしとつり同日熊本鎮臺の手とて竹の家を  
攻撃しつひよ夜よ入り廿三日の曉まを奮戦し  
賊ハ竹の家とまを走り大津の賊ハ昨夜三浦  
の手へあそひ来り今曉よつり賊敗北しと  
逃げ去り大津を落し諸口の賊ハ山へ迫りつと  
屯集まるとつり総軍御舟よつりマルマイハダヤマ。

クミサカカの要地と取り賊軍敗走しと死傷の數  
あれど其内肥後人多く生とり分捕も沢山つり  
官軍即死七人手負三十七人とつり熊本より  
あつせ二十日午前六時つり進撃し別働隊ハ御  
船を乗り鎮臺の手ハ水禪寺つりきくミタケミハ  
ヤ。下馬場まをめぐり勝敗いまもつりお大山の手  
ハホタクホ。新南部下南部あどとおとりの賊ハ  
必死と防戦し賊のやうまをさうて変わるともありと  
あり今度島津公の嫡子二人上京の趣意ハ先  
頃御諭しつり走まひ深く奉戴して縣下の士民へ

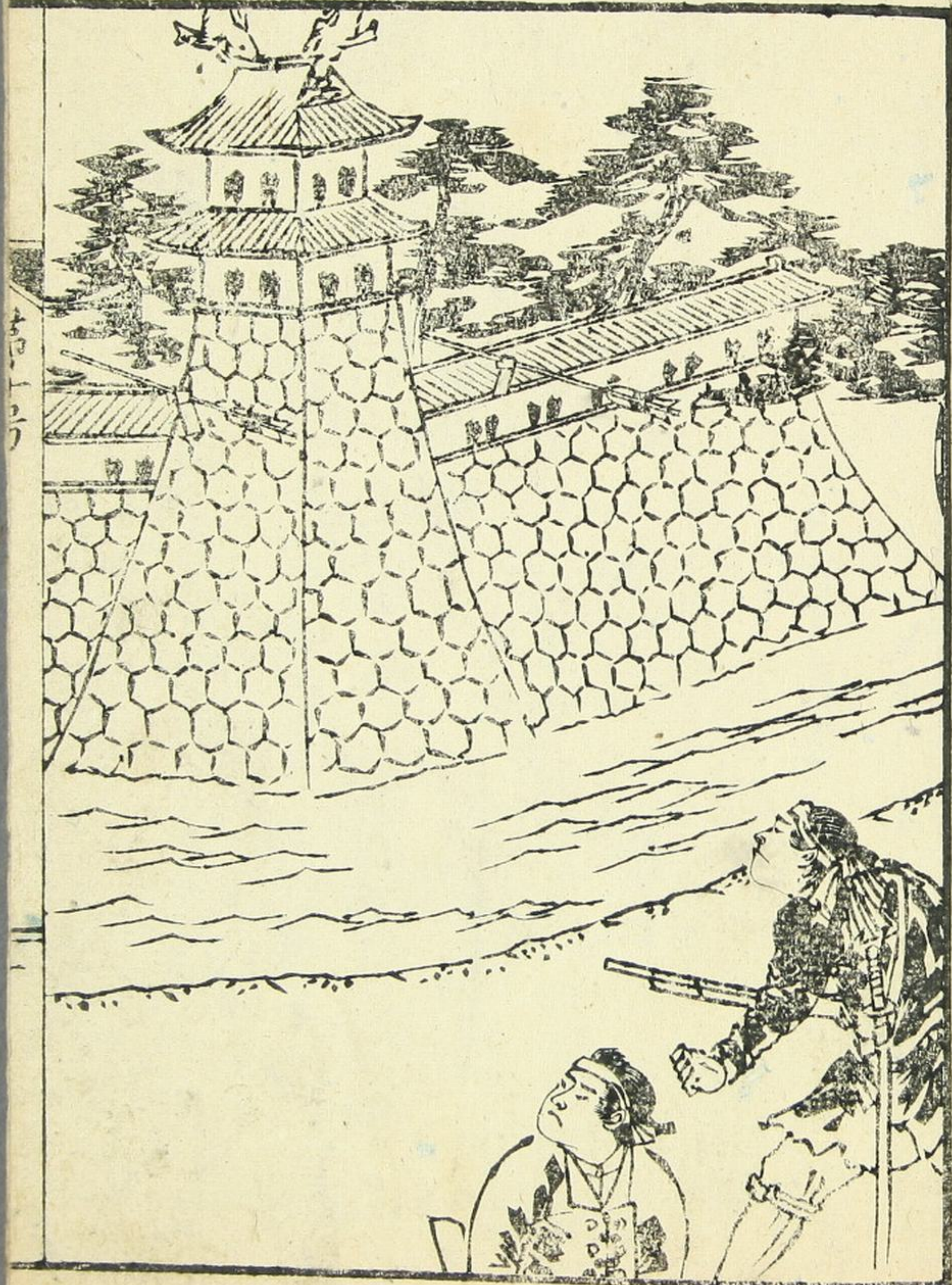




賊の妻  
 子等官  
 貞の苗  
 守宅と乱  
 暴の因

説諭のせいで何分聞入とびおひく脱走する  
 者多くあり當時の身分よての夫を引止むる権  
 なく段々届けの由谷少将の熊本城に籠られ最初  
 より食用よ心と尽され一石五回りの肥後米を八回五  
 十匁づつ買あげ二月たるとのうちに随分不自由と  
 なるがうも一同別条なく凌ぎたるも金と惜ま  
 る高直の米とあひ入となる故あり西郷ハのち城  
 中は糧米をかりかさんと推察し賊中より矢張  
 所持しと出たるもの申付手紙を矢よ結び付く  
 ハ城中は射とんと数度とて其支うハヤレ兵

器を捨て出城と命をたむけるの又鎮臺の不  
 埒ゆへ皆殺しよと認めたる谷少将ハい  
 つも見え笑つて居らと其後左右より連絡し  
 日向路に逃込し西郷とあり一同金策をうふ  
 心づけ出金を拒むもの首をとね家藏へ押入つて  
 強奪し乱暴極まるとりぬ叔又賊ハ悉皆大津矢  
 部木山の三ヶ所へ逃げ去り是迄の勢ひ多く賊  
 の死骸と熊本へ埋てある分が二千五百ほどゆゑ  
 現場の病人と数へ是バ六千とりんと又日奈久  
 地方の賊ハ人吉まをあひ松をとり又川路の手



賊兵熊本  
 城中へ  
 文を送る  
 図



貴一  
 大

御船の後ろを推し山田の手へ正面と斜面を  
 かり高島の手の御船の右側を三手合せて進  
 撃し賊の胸壁をかきくして暫時交戦し遂に壘  
 をまき大敗し又死体と捨てみげ走り官軍の勢  
 ひ破竹のごとく攻撃ふし御舟と乗つたり首を  
 切りとつたのが最も多く銃器弾薬分より多分あり  
 十七日一大隊と一中隊と萩原宮の原向坂杯より  
 賊の右側を目的とし直に坂下ろを開戦し賊の腹  
 脊に兵とかけ大まきな怒と兵器と捨てたり大砲  
 三門銃器弾薬とついで山とぬし実な快戦ありと云

**官 許**  
**朝鮮 牛肉丸**

小袋 六枚二厘五毛  
 中袋 十二枚五厘  
 大袋 二十五枚

此は朝鮮の牛肉丸なり。牛肉丸は牛肉を丸くし、胡椒、生姜、大棗、甘草、人参、白朮、茯苓、熟地黄、当归、川芎、芍薬、黄連、黄芩、栀子、木香、砂仁、豆蔻、胡椒、大料、小料、等を加えて煮たものである。牛肉丸は、牛肉を丸くし、胡椒、生姜、大棗、甘草、人参、白朮、茯苓、熟地黄、当归、川芎、芍薬、黄連、黄芩、栀子、木香、砂仁、豆蔻、胡椒、大料、小料、等を加えて煮たものである。牛肉丸は、牛肉を丸くし、胡椒、生姜、大棗、甘草、人参、白朮、茯苓、熟地黄、当归、川芎、芍薬、黄連、黄芩、栀子、木香、砂仁、豆蔻、胡椒、大料、小料、等を加えて煮たものである。

錦書物店 東京横山町三丁目二番地 辻岡屋文助

